

## 乗らなきゃソソソソ

### — 阿波の鉄路 —

阿波(徳島)はお遍路さんロケハンをはじめ、取材で数度お邪魔した。昔は和歌山からフェリーで渡ったこともある。最近では神戸から高速バスで明石海峡をまたぎ徳島に行くので、鉄路自体は昔一二度、巡っただけだ。

<三級鉄乗りファン・銭屋小金丸>

#### ■阿波／海・山・川

阿波は芸能の国。全国制覇阿波踊りをはじめ、文楽人形といった芸能・習い事が盛ん。阿波海人が黒潮伝いに進み東国安房国を作ったらしく、海と親しんでいる。室戸岬に向かう途中、日和佐海岸から見た海の青さ明るさはナポリなど地中海の比ではない。所詮ギョーテは田舎者。伊予に発し土佐を経て讃岐山脈ぞいに東進する吉野川一帯は阿波平野作る。四国三郎という異名通り、河口は広く衛星画像で分かるように秋津洲構造線。さらに四国山地剣山や平家落人伝説<天空の里>祖谷(現・三好市)は屈指の山深き秘境。

#### ■阿波の歩み

四国の中でも関西と結びつきが強い。南海道として紀州・泉州との接点が歴史文化を作ってきた。古代阿波人はいざ知らず、中世からは管領細川さん守護代三好くんが京で大手を振っていた。三好君は信長以前の天下人。阿波兵武力も結構有名で、凶悪な太閤「四国征伐」にも頑強に抵抗。江戸時代は淡路と合わせ、蜂須賀二十五万石大名として君臨。藍染・砂糖合わせて、実質はそれに倍する富裕を誇った。吉川英治の幕府転覆話『鳴門秘帖』はファンタジーで、ご維新はあまり出番なし。つまらぬ事件を起こし大切な

淡路を播磨に奪われた。明治期元藩公蜂須賀くんはすこぶる優秀で外交官・文部大臣と大名出身者には珍しく活躍。戦後も<すっぽん三木><カミソリ後藤田>と有力政治家が出たが、鳴門大橋開通で関西にストロー効果で吸い寄せられている。五期続いた役人上がり前知事は、公私混同まがいで手前味噌。テレビは地上波一波で、ほとんどの大阪波をケーブルで受けている。地元新聞社は社団で、阿波踊り運営で問題あり。貧すれば鈍する？

江戸期大藩だった佐賀・出雲・因幡伯耆・秋田・土佐はいずれも人口減。大塚製薬・日亜化学といったユニーク企業はあれど、産業面では厳しい。

農産物ではすだちが日本一で、柑橘類・芋。魚もそれなり。忘れてならないのは和三盆で、上品な和菓子が有名である。

<図表1>阿波の主な人口

徳島県	71.5万人	
徳島市	37.0	県都
鳴門市	23.6	
小松島市	15.4	
阿南市	4.7	
吉野川市	9.8	
阿波市	4.8	
美馬市	5.0	
三好市	4.2	

(公益財団法人 国土地理協会2023年4月調査を元に作成)

## ■ローカル色

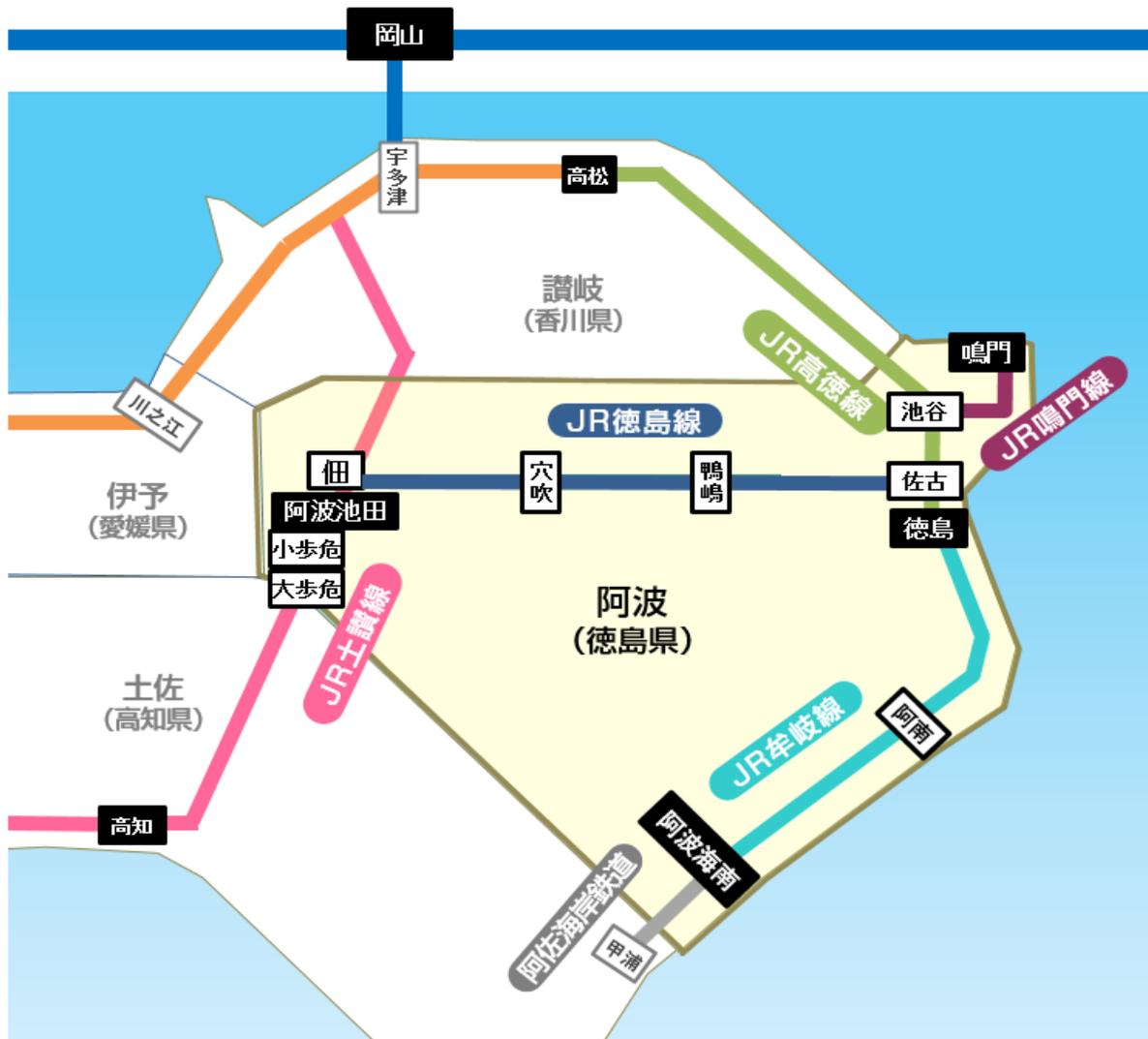
人口減と人口密度から見てJR四国は高速バス・自動車に苦戦続き。このJR四国の中でも一段とローカル色が濃いのが、阿波鉄?...

▶**JR徳島線** = JR徳島線 = 明治三十一(1899)年、私鉄徳島鉄道が徳島ー川田に開通。その後国鉄となり、徳島本線と名付けられた。徳島ー佐古(土讃線)と佃ー阿波池田(高德線)の約七十キロを結ぶ。吉野川沿いの南を東西に走る。本線といっても単線/非電化で特急「劔山」(185)は轟音を立てて吉野川を遡って行く。私が乗った時は

ちょうど桜開花前で、菜の花と川面が美しかった。終点の阿波池田は一昔前、甲子園を熱狂させた池田高校の地。静かな街で、和菓子屋が目立った。

▶**JR土讃線** = 土讃線は明治二十一年、港町多度津と琴平を結んだ観光列車。戦前昭和十年にやっと土佐まで開通。この路線は讃岐・土佐のイメージが強いが、有名な大歩危・小歩危は阿波。昭和三十年代まで蒸気機関車D51が引いていた記録映画は、まさに難所を走る悲壮感に溢れていた。運転士はさぞご苦労さん。あまりSLをもては

<図表2> 阿波鉄



(江古田鉄道研究会©)

やすなかれ。十年前に岡山から特急南国で二度ほど往復した。瀬戸大橋で船や島を眺め、丸亀城石垣に目を見張り、讃岐富士奇形に瞠目し、金比羅山を過ぎ阿波に入ると急に山深くなる(箸蔵駅)。そして祖谷口から大歩危・小歩危。昔よりトンネルが増えたが、どの季節でも見所多し。海・城・山・激流を満喫できる鉄道だ！

▶**JR高徳線**＝名前通り、讃岐・高松市と徳島市を結ぶ路線。元々は阿波電気鉄道が鳴門ー徳島を結ぶ路線だった。高松から少しずつ延伸し、戦前全通。現在は特急「うずしお」が走る。讃岐山脈も西側は高いが東は低く、高松出張の折に往復したが、あまり印象はない。合計七十五キロ非電化。

▶**JR鳴門線**＝池谷駅から鳴門駅まで七駅八キロを結ぶ。歴史は古く、1916年に阿波電気鉄道が開業。一部列車は高徳線で徳島まで行くが、現在は高速バスが便利。私も半世紀前に乗ったきりで、よく覚えていない。スミマセン。

▶**JR牟岐線**＝徳島の南に位置する小松島は古くから港として開け、大正二年に一部鉄道が敷設され、のちに室戸岬を目指して昭和十年阿波海南まで開通。八十キロ近い路線で土讃線が山なら、こっちは海岸路線でほぼお遍路さんの道。途中の海岸はウミガメや海岸段丘で知られている。牟岐線はほとんどが一両編成で、一時間一～二本のローカルディーゼル車。十年前一度乗ったが、あいにく雨だった。トホホホ・・・。

▶**DMV**＝現在、阿波海南駅から阿佐海岸鉄道「阿佐東線」が開業した。これは自動車を軌条で走らせるDMV(デュアル・モード・ビークル)。私は乗ったことがなく、テレビ鉄番組で数度紹介されていて

ているのを見た。会社は昭和末に徳島・高知・海陽町などの資本で設立された三セク。令和三(2021)年クリスマスの日が開業し、観光資源となっている。

## ■何より産業を彩

阿波といえば鳴門の渦潮で、特急列車の名前となっている。鳴門大橋はそれを一またぎにし、高速道路は阿波を関西に引き寄せている。

最新データによると阿波人口は七十万人を切っている。県西部の祖谷は「天空の里」として知られており、登山ハイキング客が訪れる。土佐室戸までのお遍路さんの道は八十八番札所の中でも最も見栄えがいい。またJR高徳線板野駅近くの「藍住町」、藍住町歴史館は織物文化や江戸時代の商家豪邸を知る上に絶好の街である\*。

人形浄瑠璃をはじめ上方文化に大きな影響を与えた阿波は、今ひっそりした土地となっている。なにやらアニメでまちづくりも・・・。

ただし、いつも静かな阿波の街や人が阿波踊りで熱狂的になるさまが、忘れられない。

\*: 藍染と言うと関東では武州羽生・鴻巣が知られているが阿波こそ本場本家。なお鉄よりも徳島からのバスがおすすめ。